

3

運 転 す る と き

スイッチの使いかた

| | |
|--------------------------|------|
| エンジンスイッチ | 3-2 |
| ライティングスイッチ | 3-4 |
| オートヘッドランプレベラー (自動光軸調整機構) | 3-6 |
| 光軸調整ダイヤル | 3-7 |
| 方向指示レバー | 3-8 |
| フロントフォグランプスイッチ | 3-9 |
| ワイパー&ウォッシャースイッチ | 3-10 |
| ヘッドランプウォッシャー | 3-13 |
| リヤウインドウデフォグガー (曇り取り) | 3-13 |
| フロントワイパーデアイザー | 3-15 |
| ハザードランプ (非常点滅灯) スイッチ | 3-16 |
| ホーンスイッチ | 3-16 |
| イルミネーションコントロールダイヤル | 3-17 |
| ブライト (減光キャンセル) 機能 | 3-17 |

メーター、表示灯、警告灯の見かた

| | |
|------|------|
| メーター | 3-18 |
| 表示灯 | 3-22 |
| 警告灯 | 3-28 |

運転装置の使いかた

| | |
|----------------|------|
| エンジンの始動と停止のしかた | 3-37 |
| 駐車ブレーキレバー | 3-39 |

マニュアル車の運転

| | |
|-------------------------------------|------|
| チェンジレバー | 3-40 |
| REVインジケーター | 3-42 |
| ヒルスタートアシスト (VDC装着車) | 3-43 |
| Info-ECO (インフォ・エコ) モード | 3-45 |
| SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive) | 3-46 |

オートマチック車の運転

| | |
|------------------------|------|
| セレクトレバー | 3-47 |
| 運転手順 | 3-51 |
| スポーツモード | 3-55 |
| スポーツシフト | 3-56 |
| Info-ECO (インフォ・エコ) モード | 3-58 |

AWD車の運転

| | |
|----------------------------------|------|
| 運転するとき | 3-59 |
| ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD | 3-60 |
| アクティブトルクスプリットAWD | 3-60 |
| マルチモード DCCD (ドライバースコントロールセンターデフ) | 3-61 |

クルーズコントロール 3 - 66

ブレーキ

| | |
|----------------------|------|
| アンチロックブレーキシステム : ABS | 3-71 |
| ブレーキブースター (制動力倍力装置) | 3-74 |
| ブレーキアシスト | 3-74 |

VDC

| | |
|-----------------------------------|------|
| VDC (ビークルダイナミクスコントロール) システム | 3-75 |
| マルチモードVDC (ビークルダイナミクスコントロール) システム | 3-80 |

ハンドル

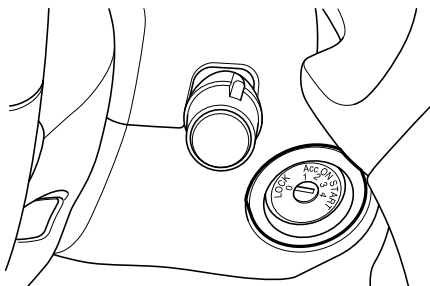
| | |
|-----------|------|
| パワーステアリング | 3-85 |
|-----------|------|

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2-12ページをご覧ください。

■各位置の働き



300078

| | |
|----------------------|--|
| LOCK (ロック) 0 | キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます |
| 1 | 電源が切れる位置 マニュアル車はキーを押し込む位置 オートマチック車は、セレクトレバーが[P]にあるときは、この位置は使えません |
| Acc (アクセサリ) 2 | エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケットなど |
| ON (オン) 3 | エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます |
| START (スタート) 4 | エンジンを始動する位置 |



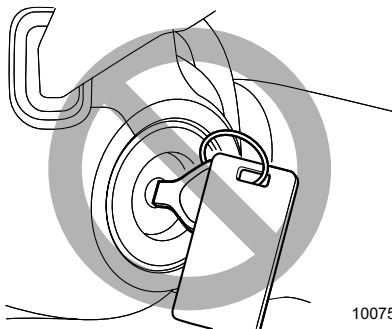
警告

走行中LOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルが固定され、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

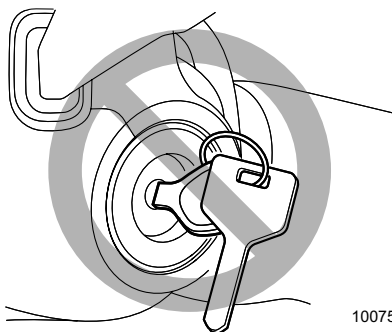
- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。テコの原理で小さな力でも回してしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重いものをキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき



100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき



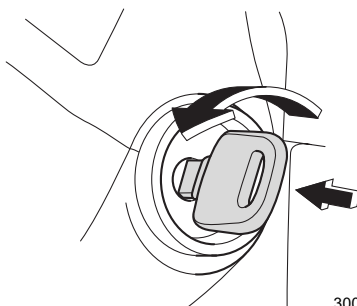
100759

🏠 アドバイス

- エンジンを止めているときは、スイッチをLOCKにしてください。
- 長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーを **P** にしてキーをLOCKに回してください。
マニュアル車は、「1」（キーを手前に回すと動かなくなる位置、エンジンスイッチに1と刻印）でキーを押し込んでからLOCKに回してください。



300079

■キー抜き忘れ警報

キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。



アドバイス

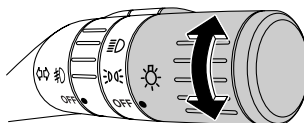
車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）

エンジンスイッチの周辺が点灯します。
運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も20秒間点灯し、その後徐々に消灯していきます。

ライティングスイッチ

ハンドルの右側のレバーがライティングスイッチです。レバー内のスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



301024

| | | |
|---------|--------|------------|
| スイッチの位置 | ヘッドランプ | 車幅灯、尾灯、番号灯 |
| OFF | 消灯 | |
| ☺☺☺ | 消灯 | 点灯 |
| ☹☹ | 点灯 | |

注意

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。また、車から離れるときは、必ずライティングスイッチを OFF にしてください。バッテリー上がりの原因になります。

アドバイス

ランプ類が点灯しているときに、次の操作を行うと自動的にランプ類は消灯します。

- ブッシュエンジンスイッチを押して電源をOFFにしたとき（キーレスアクセス装着車）
- キーを抜いたとき（キーレスアクセス装着車以外）

自動的に消灯した場合、電源を ON、もしくはキーを差すと、ランプが再び点灯します。

また、電源がOFF、またはキーを抜いた状態でも、ライティングスイッチを OFF にしてから再度☺☺☺または☹☹にするとランプが点灯します。

運転するとき

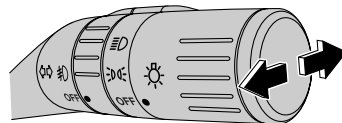
■ ランプ消し忘れ警報

電源が OFF、またはキーを抜いた状態でランプ類が点灯しているときに、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

■ ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。

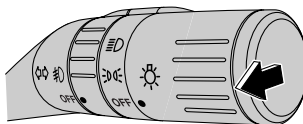
レバーを元に戻すと下向きになります。



■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプは上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。

ライティングスイッチがOFFでも使えます。



301137

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）

下向きヘッドランプにHID（高輝度放電式ランプ）が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。

ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。



警告

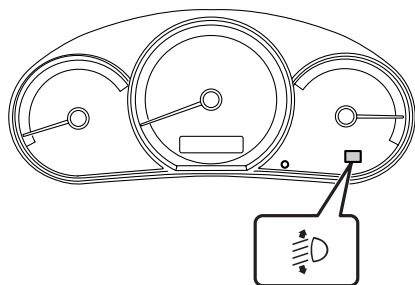
HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

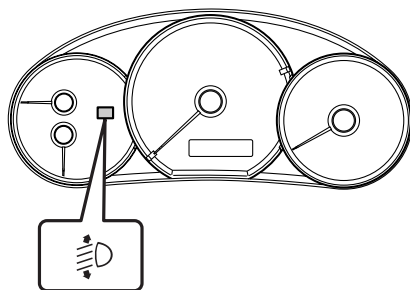
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

タイプAメーター



300987

タイプBメーターおよびタイプCメーター



300988

注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯するとき、安定するまでに若干明るさや色が変わることがあります。
- HIDランプは発熱量が少ないため、雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

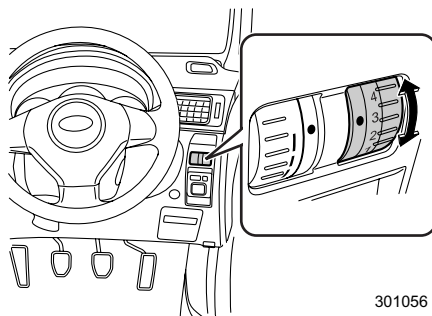
運転するとき

光軸調整ダイヤル

下向きヘッドランプにハロゲンランプが装着されている車には、光軸調整ダイヤルがついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。

エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きは下側になります。



301056

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。

| ダイヤル位置 | 前席乗車人数 | 後席乗車人数 | 荷室への積載 |
|--------|----------|--------|--------|
| 0 | 1名もしくは2名 | 0名 | 無 |
| 1 | 2名 | 3名 | 無 |
| 2 | 2名 | 3名 | 有※ |
| 3 | 1名 | 0名 | 有※ |
| 4 | — | — | — |
| 5 | — | — | — |

※荷室満載にした場合



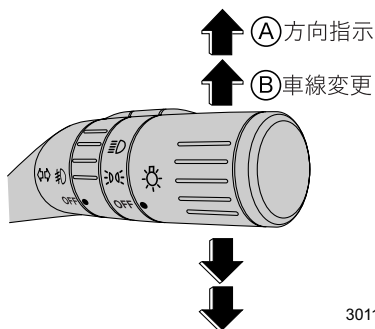
アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

方向指示レバー

ハンドル右側のレバーを使います。
 エンジンスイッチがON のとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。
 右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。

☆3-22ページ参照



301138

🏠 アドバイス

車線変更の合図をするには

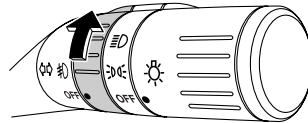
レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。(ⓐ位置)

手を離すと元の位置に戻ります。

フロントフォグランプスイッチ

ライティングスイッチが☉または☼のとき、スイッチを回すとフロントフォグランプが点灯します。

フロントフォグランプ点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。



301028

🏠 アドバイス

フロントフォグランプは、光束が拡散するように設計しているので、ヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。


運転するとき

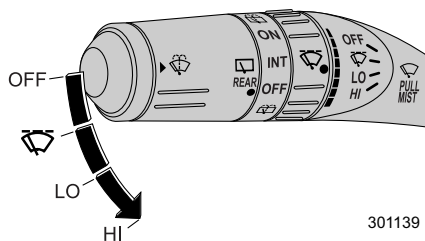
ワイパー&ウォッシャースイッチ

ハンドルの左側のレバーがワイパー&ウォッシャースイッチです。
エンジンスイッチがAccまたはONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動


レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

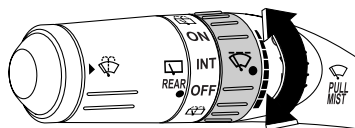
| | |
|---|--------|
| OFF | 停止 |
|  | 間欠作動 |
| LO | 低速連続作動 |
| HI | 高速連続作動 |



301139

●間欠作動の時間調整

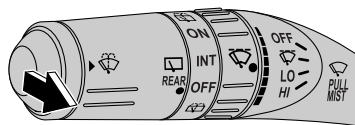
レバーを1段押し下げます。( 位置)
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は9段階に調整できます。
リングを上に戻すと作動間隔が短くなり、下に回すと長くなります。



301140

●ワイパーを手動で使いたいときには (MIST)

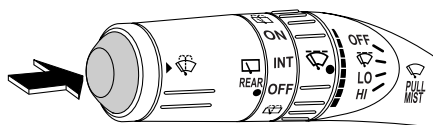
レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を離すと停止します。



301141

●フロントウォッシャー

スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。



301031

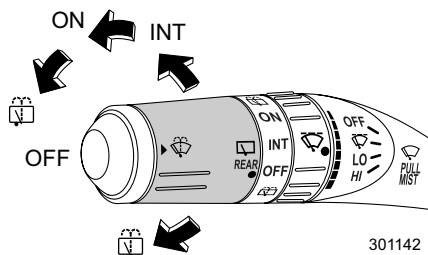


アドバイス



スイッチを押すとワイパーが1～2回動きます。

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。




301142

| | |
|--|--------------------------------------|
|  (上側) | ウォッシャー液が噴射します。手を離すとONに戻ります。 |
| ON | 連続で作動 |
| INT | 間欠 (車速に応じて変わります) |
| OFF | 停止 |
|  (下側) | ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を離すとOFFに戻ります。 |

アドバイス

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残しができるときにはワイパーブレードのラバーを交換してください。


☆6-19ページ参照

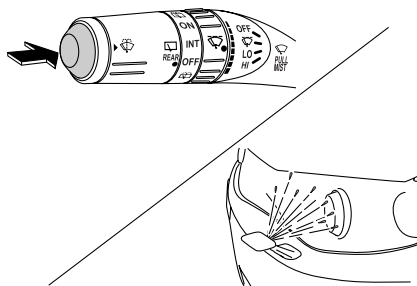
- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
 - ー フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを (デフロスター) にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
 - ー リヤガラスは、リヤウインドウデフォグガーを使用してください。

☆3-15ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチを OFF、エンジンスイッチを Acc または LOCK (OFF) にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチを OFF にしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ゴミなどがつまると、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

ヘッドランプウォッシャー

ヘッドランプが汚れたときに使用します。
エンジンスイッチがONでライティングスイッチがのとき、フロントウォッシャーのスイッチを1秒以上押すと、フロントウォッシャーと連動して作動します。ヘッドランプウォッシャーは約1秒間作動し、停止します。



301143

アドバイス

- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ゴミなどが詰まるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

運転するとき

リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）

リヤウインドウデフォグガーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

■ リヤウインドウデフォグガーの使いかた

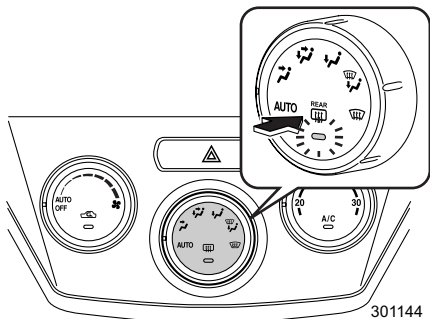
スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）

● リヤウインドウデフォグガーのカスタマイズ

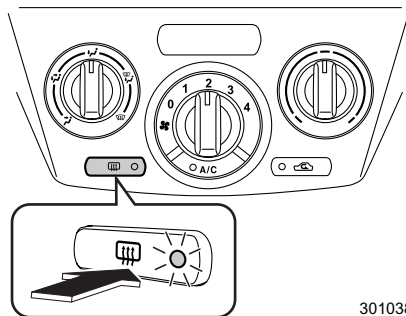
リヤウインドウデフォグガーの15分作動/連続作動の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

オートエアコン付車※



マニュアルエアコン付車



※グレードによりダイヤルのデザインが一部異なります。

アドバイス

- 消費電力が大きいため長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- ヒートドドアミラー装備車は、リヤウィンドウデフォグスイッチを押すと、ヒートドドアミラーも連動して作動します。

☆2-102ページ参照

- フロントワイパーテアイサー装着車は、リヤウィンドウデフォグスイッチを押すと、フロントワイパーテアイサーも連動して作動します。

☆3-15ページ参照

- 連続作動は15分間作動し、2分間停止し、再度15分間作動を繰り返します。バッテリー電圧が弱くなると連続作動をやめ、15分間作動で停止します。

フロントワイパーデアイサー

フロントワイパーデアイサーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。リヤウインドウデフォグガーに連動して作動します。

☆3-13ページ参照

フロントワイパーがガラスに凍結（ワイパー停止位置）しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。

電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

■フロントワイパーデアイサーの使いかた

リヤウインドウデフォグガースイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。

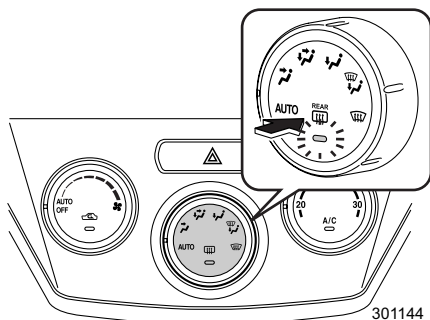
作動中、途中で止めたいときは、もう一度押します。（表示灯が消灯します）

■フロントワイパーデアイサーのカスタマイズ

フロントワイパーデアイサーの15分作動/連続作動の設定を変更することができます。

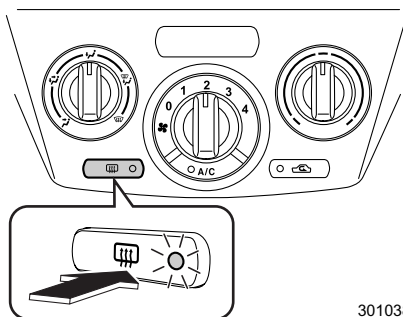
☆1-2ページ参照

オートエアコン付車※



301144

マニュアルエアコン付車



301038

※グレードによりダイヤルのデザインが一部異なります。

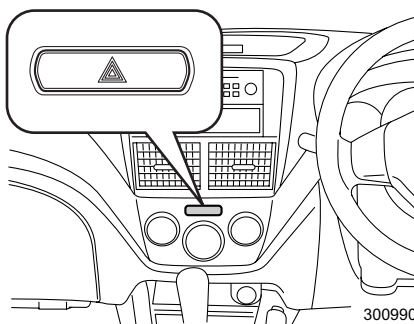
🏠 アドバイス

- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- 連続作動に設定していても、下記条件のときには、15分後に停止します。
 - － 外気温度が5℃以上のとき
 - － Info-ECOモードがONのとき
 - － 車速15 km/h以下が15分間続いたとき
 - － バッテリー電圧が低下したとき

ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ

ハザードランプは、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと方向指示器が点滅します。

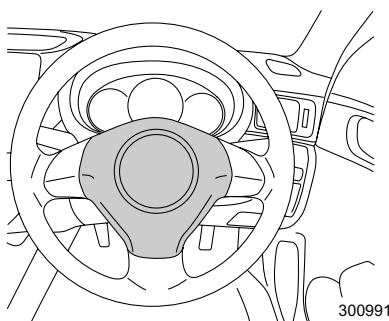


アドバイス

- 非常時にお使いください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



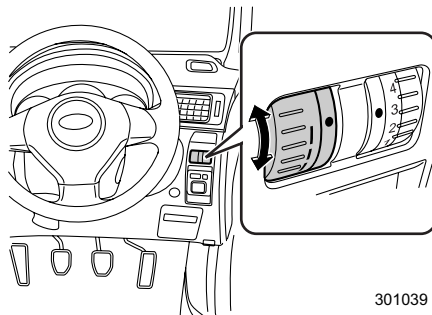
アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

イルミネーションコントロールダイヤル

ライティングスイッチが①D②あるいは③D④のとき、コントロールダイヤルを回すとコンビネーションメーター、エアコン、オーディオ、時計の明るさを調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。



301039

アドバイス

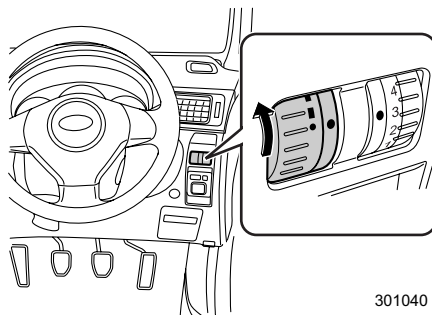
タイプBメーターおよびタイプCメーターはライティングスイッチがOFFでも調整できます。

運転するとき

ブライト（減光キャンセル）機能

ライティングスイッチを①D②または③D④にすると表示部の明るさが一段減光し、暗くなります。昼間、ランプを点灯させて走るようなときで表示が見にくい場合は、減光をキャンセルし、明るくすることができます。

ダイヤルを一番明るい段階からさらに一段階（●印部分）、上方向に回すと減光がキャンセルされ、明るくなります。



301040

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■メーターの初期作動

メーターは、エンジンスイッチをONにするとメーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。(スィープ機能)

アドバイス

- すばやくキーを回してエンジンを始動すると、メーターのスィープ機能が作動しない場合がありますが、故障ではありません。
- メーターの初期作動(スィープ機能)は作動あり/作動なしの設定ができます。

☆3-22ページ参照

■スピードメーター

車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター (エンジン回転計)

毎分のエンジン回転数を示します。

注意

指針がレッドゾーン(エンジンの許容回転数を超えている範囲)に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

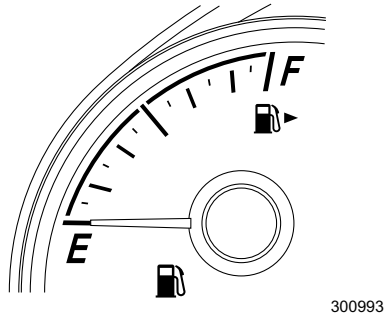
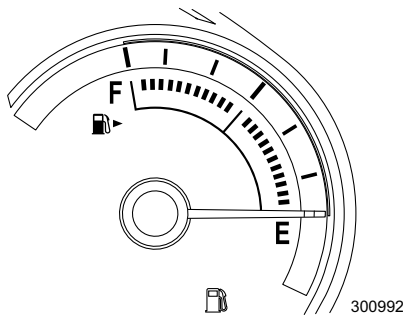
■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。

☆2-50ページ参照

タイプAメーター

タイプBメーターおよびタイプCメーター



⚠ 注意

燃料給油するときは、必ずエンジンを止めてください。

☆1-8ページ参照

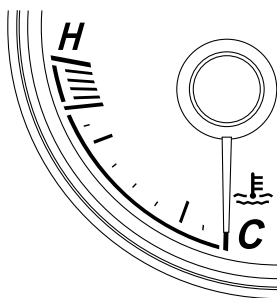
🏠 アドバイス

- エンジンスイッチがONのときのみ、燃料の残量を示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。
- 給油量が少ない場合（約 15ℓ以下）、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- エンジンスイッチが ON 以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと一定時間燃料の残量を表示します。

■水温計（タイプBメーターおよびタイプCメーター）

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。



300994



注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。

☆7-25ページ参照



アドバイス

エンジンスイッチがON以外のときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。

「H」：高温（HOT）

「C」：低温（COLD）

を示しています。

■オドメーター（積算距離計）

走行した総距離をkmで表示します。



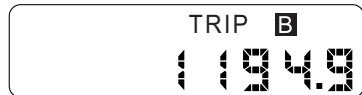
301010

🏠 アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

■トリップメーター（区間距離計）

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999.9 kmです。



301011

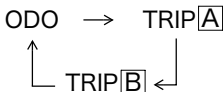
🏠 アドバイス

- エンジンスイッチが ON 以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。
- 液晶表示は偏光サングラスを使用すると見えにくくなる場合があります。

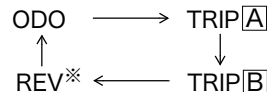
●オドメーター、トリップA、B切り替え

トリップ切り替え/トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

タイプAメーターおよびタイプBメーター



タイプCメーター



※走行時には切り替わりません

●トリップメーターを0に戻すとき

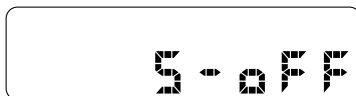
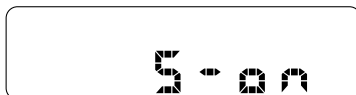
トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。

■メーターの初期設定

●指針の初期作動（スイープ機能）の設定のしかた

指針の初期作動は次の操作により作動あり/作動なしの設定ができます。

- ① エンジンスイッチをON以外の位置にしてください。
- ② トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し、表示を切り替えます。
 - トリップ表示の次に現在の設定が表示されます。(タイプAメーターおよびタイプBメーター)
 - 「REV.」表示の次に現在の設定が表示されます。(タイプCメーター)
- ③ このときトリップ切り替え/トリップリセットノブを2秒以上押しと切り替わります。



301041

表示灯

■方向指示器表示灯



方向指示器の点滅を示します。



アドバイス

方向指示器のバルブ（電球）やヒューズが切れたとき、またワット数の異なったバルブ（電球）を使用すると点滅の早さが異常になります。
すみやかに点検し、異常のあるバルブ（電球）やヒューズを交換してください。
☆6-21ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯 (タイプBメーターおよびタイプCメーター)

ライティングスイッチが  または  位置時に点灯します。



■ハイビーム/パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きするとき点灯します。
また、パッシング時も点灯します。






■フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。

🏠 アドバイス

フロントフォグランプは、光束が拡散するように設計しているので、ヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■セキュリティ表示灯

リモコンキーの  ボタンを押し、全てのドアとリヤゲートを施錠すると盗難警報装置が監視状態に入り、表示灯が点滅します。



⚠️ 注意

リモコン操作の施錠後、キーを使ってドアの解錠操作を行うと車両ホーンが鳴り、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。

☆2-39ページ参照

●イモビライザー装備車

通常は点滅しています。

エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯します。

⚠️ 注意

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。

☆2-31ページ参照

■Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯

「ECO」スイッチを押してInfo-ECO（インフォ・エコ）モードを選択したときに表示灯が点灯します。

ECO

☆3-45、3-58ページ参照


🏠 アドバイス

“Info-ECO”表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“Info-ECO”表示灯は消灯します。

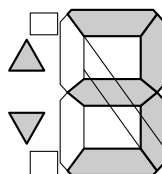
“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

■シフトポジション表示灯（オートマチック車）

スポーツモード、マニュアルモード選択時、ギヤ位置を表示します。

また、マニュアルモード選択時、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であることを示す印が点灯します。

☆3-56ページ参照

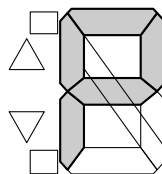


300995

■セレクトインジケーター（オートマチック車）

セレクトレバーの位置を示します。


☆3-47ページ参照



301042

■SPORT（スポーツ）表示灯（オートマチック車）

SPORT

セレクトレバーをからマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードが選択され“SPORT”表示灯が点灯します。同時にシフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。

☆3-56ページ参照



アドバイス

“SPORT”表示灯はエンジンを始動してから約2秒間点灯します。



■VDC作動表示灯 (VDC装着車)

VDC作動時は点滅し、TCS機能作動時は点灯します。

☆3-75ページ参照

注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および、エンジンスイッチON後、約2秒たっても消灯しない場合はVDCの電子制御システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

エンジンスイッチONで点灯、約2秒後消灯します。

■クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロールのメインスイッチを押すと表示されます。

表示灯が点灯すると、クルーズコントロールシステムの速度設定ができます。

☆3-66ページ参照

CRUISE

運転するとき

注意

もし走行中にこの表示灯の点滅とエンジン警告灯の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

アドバイス

- エンジンスイッチONで点灯、約3秒後消灯します。
- クルーズコントロールレバーに触れながらエンジンを始動させると、この表示灯が点滅します。この場合、一旦エンジンスイッチをOFFにしてレバーに触れずに再度エンジンを始動してください。

■クルーズコントロール車速セット表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

クルーズコントロール表示灯が点灯している状態で、任意の速度を設定したときに表示されます。

☆3-67ページ参照

SET

■I（インテリジェントモード）表示灯

[I]

SI-DRIVEのI（インテリジェントモード）を選択すると点灯します。

☆3-46ページ参照

注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■S（スポーツモード）表示灯

[S]

SI-DRIVEのS（スポーツモード）を選択すると点灯します。

☆3-46ページ参照

注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■S#（スポーツシャープモード）表示灯

S#

SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択すると点灯します。

☆3-46ページ参照

注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■シフトアップ表示灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

SI-DRIVEのI（インテリジェントモード）を選択している場合、燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップのタイミングを点滅してお知らせします。

■DCCD オートモード表示灯

AUTO

オートモードを選択すると表示灯が点灯します。
☆3-62ページ参照

●DCCDオートモード[+]表示灯

オートモード[+]を選択すると表示灯が点灯
します。
☆3-62ページ参照

AUTO ▶[+]

●DCCDオートモード[-]表示灯

オートモード[-]を選択すると表示灯が点灯
します。
☆3-62ページ参照

[-] ◀ AUTO

301222

運転するとき

■DCCDマニュアルモード表示

301223

マニュアルモードを選択するとイニシャル
LSDトルクの目安が表示されます。



301184

警告

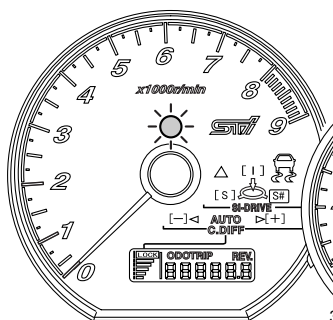
センターデフ故障時（コントロールユニット、センサー類、断線、ショートなど）DCCDマニュアルモード表示の全ての表示が1秒周期で点滅します。すみやかにスバル販売店で点検整備を受けてください。
一度異常が検出されるとエンジンスイッチがOFFになるまで保持されるので、途中で復帰しても表示灯は点滅したままになります。

☆3-63ページ参照

■REVインジケータ

設定回転を超えると点灯します。

☆3-42ページ参照



301219

警告灯

■ブレーキ警告灯



エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD) の電子制御システムに異常があるとき

EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-73ページ参照

注意

- エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- ブレーキ液が正常で、ABS 警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム (ABS) に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

運転席シートベルト未着用のまま車速約 22 km/h 以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。

上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。

警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

☆2-66ページ参照

運転するとき

アドバイス

このとき車速が約22 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

半ドア警告灯

エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。

リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。

注意


警告灯が点灯したままの状態で行かないでください。

ABS警告灯


エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

アンチロックブレーキシステム (ABS) の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-71ページ参照

 **注意**

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

 **アドバイス**

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。


■ AWD警告灯 (AWDオートマチック車) 

AWD

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

スペアタイヤに交換する場合、AWDを解除して2WD（二輪駆動）にしたとき点灯します。また、異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

☆3-60ページ参照

 **注意**

- AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると、駆動装置が損傷する可能性があります。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■ ヒルスタートアシスト警告灯 (VDC装着のマニュアル車) 



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。エンジン回転中、ヒルスタートアシストの制御システムに異常があると点灯します。

☆3-43ページ参照

警告

警告灯が点灯した場合はすみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■SRSエアバッグ警告灯**AIR BAG**

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。
運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装着車）、カーテンエアバッグ（装着車）、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

注意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■AT油温警告灯（オートマチック車）

AT OIL
TEMP

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。
オートマチックトランスミッションオイルの温度が高くなると点灯します。

注意

- 走行中に点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクタレバーをPにしてエンジンをかけたままにしてください。しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- AT 油温警告灯が点滅したときは、オートマチックトランスミッションに異常があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■リヤデフ油温警告灯

R. DIFF
TEMP

リヤデフの油温が上昇したときに点灯します。点灯するとマルチモードDCCDのイニシャルLSDトルクの調整ができなくなります。

点灯が予想される条件

- オフロードやラリーなどのシビアな走行をした場合
 - 急な登り坂をけん引走行するなどリヤデフに高負荷がかかった場合
 - タイヤが適正空気圧になっていない場合
 - 前後で異なる銘柄、異なるサイズのタイヤを装着した場合
 - 応急用スペアタイヤを装着し、高速走行、長時間走行した場合
- 点灯した場合はすみやかにリヤデフオイルを交換してください。

注意

- 警告灯が点灯したときは、直ちに安全な場所に停車してリヤデフを冷やし、上記の点灯が予想される条件を点検して必要な処置を行ってください。
- 点灯したまま走行を続けると、駆動系損傷の原因となります。
- リヤデフが冷えた状態や、上記の点灯が予想される条件を取り除いても点灯している場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■チャージ警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムの異常があると点灯します。



⚠ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。
高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約9リットル以下になると点灯します。



⚠ 注意

点滅したときはフューエルメーター（燃料計）に異常があります。このとき正しい燃料残量は表示されません。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■水温表示灯／水温警告灯

この警告灯は、水温の低温を示す表示灯（青）とオーバーヒートを示す警告灯（赤点滅と赤点灯）があります。



エンジン始動後、ある一定の温度に達するまで表示灯は青く点灯し、ある一定の温度に達すると表示灯は消灯します。

エンジンがオーバーヒート状態になると警告灯が赤色に点滅または点灯（水温が上がると点滅し、さらに上がると点灯）します。

注意

- 赤色に点滅または点灯したときは、車を安全な場所に止め、オーバーヒートの処置を行い、スバル販売店で点検を受けてください。

☆7-25ページ参照

- ただし赤色に点滅時のみ、すみやかに車を安全な場所に止めることができない場合は、ゆっくり走行してください。その場合でも必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにした後、約1秒以上たっても赤く点灯し続けたときまたは、赤／青に交互に点灯した場合は電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジンスイッチをONにすると、約1秒間赤く点灯し、その後消灯あるいは青く点灯します。
- 走行状態により、再始動時しばらくの間赤く点灯する場合がありますが、消灯すれば異常ではありません。

■VDC警告灯/VDC OFF表示灯 (VDC装着車)



VDC警告灯はエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

また、以下のときも点灯します。

- VDC機能および、TCS機能が作動停止状態のとき
- VDC OFFスイッチを押してVDC機能および、TCS機能を作動停止状態にしたとき

☆3-75ページ参照

注意

警告灯が点灯したままのとき

- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。

VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しません
がABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。
滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンを始動してから数分たっても消灯しない場合は異常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
 - エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■ VDC警告灯/VDCモード表示灯 (マルチモード VDC装着車)



VDC警告灯はエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

また、以下のときも点灯します。

- VDC機能および、TCS機能が作動停止状態のとき。
- トラクションモードを選択したとき（緑色）。
- OFFモードを選択したとき（黄色）。

☆3-80ページ参照

注意

警告灯が点灯したままのとき

- マルチモード VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。
VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、マルチモード VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しません
がABSは作動します。マルチモード VDCの付いていない車両と同じよう
に扱ってください。
滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受
けてください。
- エンジンを始動してから数分たっても消灯しない場合は異常が考えられ
ますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - ー エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後再び点灯し
ない。
 - ー エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯
する。
 - ー 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場
合がありますが、これは異常ではありません。

■オートヘッドランプレベラー警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制
御システムに異常があると点灯します。



注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整
が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■キー無し警告灯（キーレスアクセス&プッシュスタート装着車）



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

車内にアクセスキーがない場合に点滅します。

☆2-19ページ参照

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は2-12ページをご覧ください。

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキがかけてあるか確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
- ③ エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)

🏠 アドバイス

<クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキがかけてあるか確認します。
- ② セレクトレバーがPであることを確認します。(Nでも始動できますが、安全のためPで始動してください。)

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)

⚠️ 警告

車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。

車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けしないでください。スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回してください。

アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしてしないでください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドルリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっばいに踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。
それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドウデフォグスイッチをOFFにした方が、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ エンジンの停止

エンジン回転数がアイドルリング状態まで下がってから、エンジンスイッチを切ります。

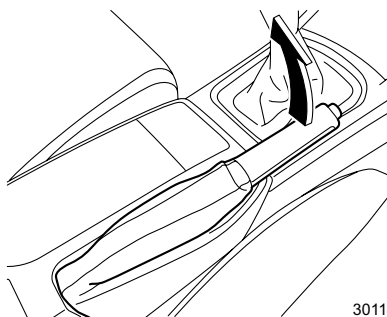
アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転数がアイドルリング状態に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキレバー

■使用するとき

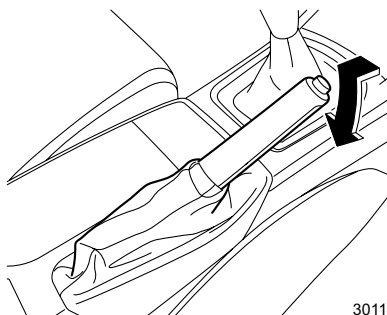
ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。



301145

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



301146



注意

- 駐車するときは車が動き出さないように確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

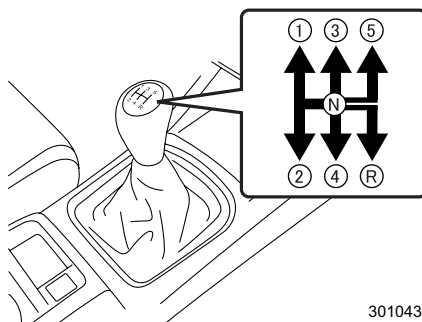
マニュアル車の運転

チェンジレバー

■5速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。

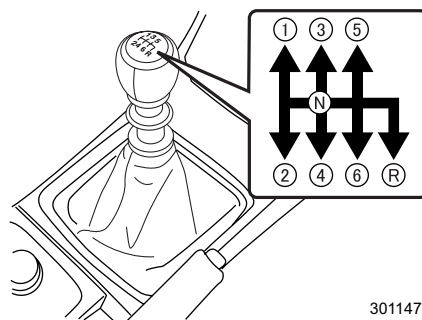
“R” にするとブザーが鳴ります。



301043

■6速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。

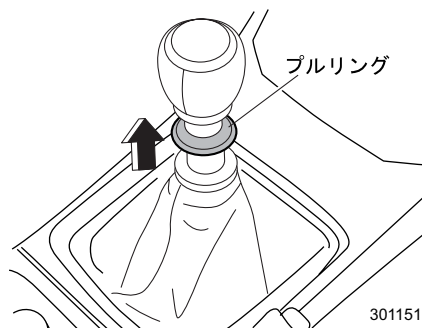


301147

“R” に入れるときはプルリングを引き上げたままレバーを操作してください。

“R” にするとブザーが鳴ります。

レバーを“N”に戻すと、プルリングは元の位置に戻ります。



301151

 **注意**

- 5速マニュアル車は、誤操作を防ぐため“5” → “R”へ直接入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。
- 6速マニュアル車で、レバーを“N”に戻してもプルリングが元の位置に戻らないときはシステムの異常が考えられます。この場合スバル販売店で点検を受けてください。
- チェンジレバーを“R”に入れるときは、車が完全に止まり、エンジン回転数がアイドリング状態まで下がってから、入れてください。エンジン回転数が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。

 **アドバイス**

- 変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。
- “R”に入るとブザーが鳴り、“R”であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんがご注意ください。
- 後退した後は、すぐに“R”から“N”に戻す習慣をつけてください。

REVインジケーター

REV インジケーターは任意に設定したエンジン回転数になったことを表示灯（インジケーター）の点灯、またはブザーの吹鳴によりドライバーに知らせます。

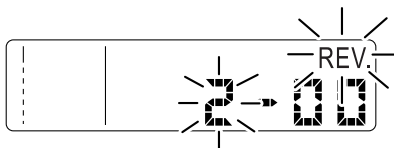
REVインジケーターの作動設定を行う場合に使用します。

エンジンスイッチの位置に関係なく設定できます。

エンジン回転数の設定範囲は、2000～8000 rpmの間、100 rpm単位です。

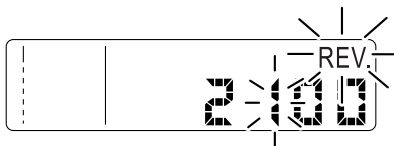
■ 設定の方法

- ①トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し、「REV.」表示を選択します。
- ②トリップ切り替え/トリップリセットノブを約2秒以上押すと、「REV.」表示と千の位が点滅します。
- ③一度指を離してからトリップ切り替え/トリップリセットノブを押し続けます。数字が2～8へと順次変わりますので、希望の回転数で指を離してください。



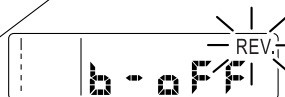
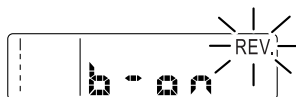
301152

- ④トリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、百の位が点滅します。
- ⑤一度指を離してからトリップリセットノブを押し続けます。数字が0～9へと順次変わりますので、希望の回転数で指を離してください。
- ⑥トリップ切り替え/トリップリセットノブを押すとブザー（ピッ）が鳴り、回転数の設定が完了します。次にブザー音の設定に切り替わります。



301153

- ⑦トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し続けると、押すごとにブザー音の設定を切り替えます。このとき「b-off」から「b-on」に設定すると、ブザー（ピピピ）が鳴ります。
- ⑧トリップ切り替え/トリップリセットノブを押すとブザー音（ピー）が鳴り、ブザー音の設定が完了します。



301154

■設定の解除

トリップ切り替え/トリップリセットノブを押し、設定回転数の千の位を「-」にするとブザー音（ピー）が鳴り、設定は解除されます。

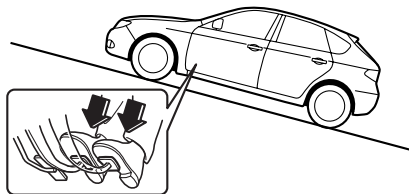
🏠 アドバイス

- 設定中、REVインジケータは作動しません。
- 設定回転数を「-」にすると設定は終了します。
- 設定途中で次のことを行うと設定は終了し、設定前の状態になります。
 - － エンジンスイッチをONからOFF、またはOFFからONにする。
 - － 走行を始める。
 - － エンジンスイッチをOFFにして設定を行っている場合、約10秒間操作をしない。
 - － エンジンスイッチをOFFにして設定を行っている場合、ドアを開閉する。
- 走行中の設定はできません。

ヒルスタートアシスト (VDC装着車)🌸

ヒルスタートアシストは上り坂での発進を補助する装置です。


上り坂での発進時、ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際に約1秒間ブレーキがかかった状態を保つ機能です。




301033

⚠️ 警告

- ヒルスタートアシストを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。
- 坂道で車を駐停車するためにヒルスタートアシストを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。
- ヒルスタートアシスト作動中に、電源をOFFにしないでください。ヒルスタートアシストが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

 **注意**

- ヒルスタートアシストは上り坂での発進を補助する装置です。坂道に駐車する際は、事故を防ぐために必ず駐車ブレーキを充分にかけ、車が動き出さないことを確認してください。
- ヒルスタートアシストは下り坂では機能しません。また、緩やかな上り坂でも機能しない場合があります。

 **アドバイス**

- チェンジレバーを“R”に入れて後退した後に前進する場合、わずかに衝撃を感じる場合があります。
- ヒルスタートアシストのブレーキ力が不十分なときは、再度ブレーキペダルを踏んでください。

■ヒルスタートアシスト警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、ヒルスタートアシストの制御システムに異常があると点灯します。

 **警告**

警告灯が点灯した場合はすみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

Info-ECO (インフォ・エコ) モード

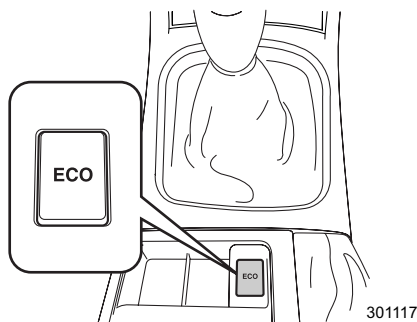
燃費効率を重視したモードです。

センターコンソールにある Info-ECO モードスイッチにより、運転条件に応じて走行モード (Info-ECOモードのON、OFF) を選択することが可能です。Info-ECO モード選択時、“Info-ECO” 表示灯が点灯中は燃費効率の良い走行状態であることを示しています。急加速などが必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときは、“Info-ECO” 表示灯は消灯します。“Info-ECO” 表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費効率の良い走りかたができます。

☆3-23ページ参照

通常走行ではこのモードの使用を推奨します。

また、Info-ECOモードスイッチを押してInfo-ECOモードを解除することにより、加速を重視したアクセルペダル特性にすることが出来ます。



SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)

SI-DRIVE [※]は、3つの特性をもった走行モードの、I (インテリジェントモード)、S (スポーツモード)、S# (スポーツシャープモード) を選べるシステムです。

I (インテリジェントモード) :

穏やかなトルクの立上りにより、大排気量自然吸気エンジンのようなスムーズかつ力強い加速感を実現。更にシフトアップ表示灯に沿って燃費重視の走りを違和感なく実現できるモードです。

☆3-26ページ参照

S (スポーツモード) :

ターボエンジンの高性能をもてあますことなく、コントロールを楽しめるような制御とし、レスポンスと力強さの心地いいバランスを実現した通常走行での使用を推奨するモードです。

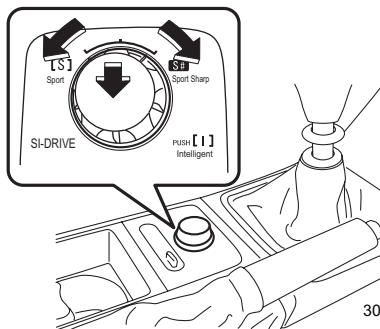
S# (スポーツシャープモード) :

レスポンスを更に上げ、鋭い加速力を狙った制御とし、全開走行時に最大のパフォーマンスを瞬時に引き出すことを容易にしたモードです。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

●SI-DRIVEセレクトター

セレクトターを左に回すとS(スポーツモード)、右に回すとS#(スポーツシャープモード)、押すとI(インテリジェントモード)になります。操作後、セレクトターは元の位置に戻ります。



301155







アドバイス

- S# (スポーツシャープモード) にしたままエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、S (スポーツモード) になります。
- S (スポーツモード) またはI (インテリジェントモード) でエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、OFFにする前のモードになります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入ってもS (スポーツモード) になります。この場合、S# (スポーツシャープモード) またはI (インテリジェントモード) への切り替えはできません。
- エンジン冷却水の温度が上がりオーバーヒートのおそれがあるときは、S# (スポーツシャープモード) への切り替えができません。S# (スポーツシャープモード) で走行している場合は、S (スポーツモード) になります。

オートマチック車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

| | | |
|---|---------------|---|
|  (パーキング) | 駐車およびエンジン始動位置 | 駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけて P にしてください。 |
|  (リバース) | 後退位置 | ブザーが鳴り、ドライバーに R であることを知らせます。 |
|  (ニュートラル) | 中立位置 | |
|  (ドライブ) | 通常走行位置 | 車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇄2速⇄3速⇄4速を自動的に変速します。 |

運転するとき

☆1-13ページ参照



警告

発進時は、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作を絶対にしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。



注意

- **P** でエンジンをかけてください。
N でもエンジンはかかりますが、安全のため **P** でかけてください。
- **P**、**R** に入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- **P** 以外の状態で長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 切り返しするとき、**D** → **R**、**R** → **D** と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- **R**に入れるとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。



アドバイス

- オートマチック車は低水温時の暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 通常**D**で走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っております。

－Nコントロール

このトランスミッションには「Nコントロール」機能が装備されています。Info-ECO（インフォ・エコ）モード選択時、車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドル状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。

「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。

－登坂制御

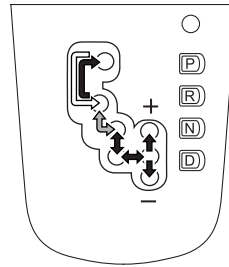
登坂での不要なアップ・ダウンを防ぎます。

－降坂制御（スポーツモード選択時のみ）

急な降坂路でブレーキを踏んだとき、エンジンブレーキを効かせるために通常より高い車速でシフトダウンする場合があります。

■セレクトレバーの操作方法

レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。



301044

| | |
|---|--|
| ↓ | ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。 |
| ↓ | そのままゲートに沿って動かします。ただし、エンジンスイッチをOFFにした場合は、ブレーキペダルを踏まないと操作できません。ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。 |
| ↓ | そのままゲートに沿って動かします。 |

⚠ 注意

セレクトレバー周辺に物を置かないでください。誤操作の原因となります。

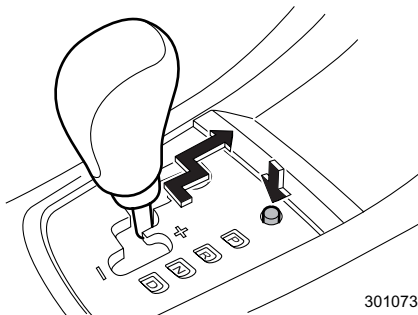
🏠 アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- **P**のときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCK (OFF) またはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを**P**から他の位置に切り替えられません。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないとできません。
- セレクトレバーを[P]から他の位置に操作するとき、セレクトレバーを横に押ししてからブレーキペダルを踏むと、レバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーが抜けない、または電源をOFFにできません。([P]以外ではキーをAccからLOCKまたはOFFにできません)
- [N]でエンジンをOFFにした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので直ちにブレーキペダルを踏みながら[P]にしてください。もし、セレクトレバーが[N]から[P]に操作できないときは、一旦エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]に操作してください。またはシフトロック解除ボタンを押しながら、レバーを[P]に操作してください。



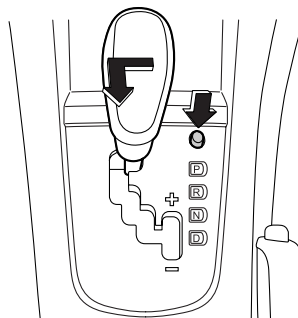
301073

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

▼解除のしかた

- ① ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押し続けます。
- ② セレクトレバーを動かします。



301224

セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店に連絡してください。

運転手順

■エンジンをかける前に

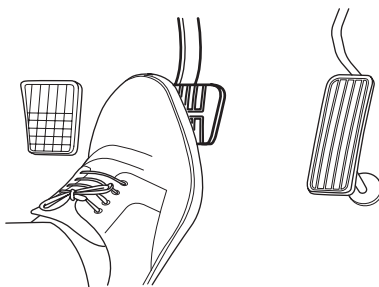
- ①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☆2-58、2-100ページ参照

- ②アクセルペダルの位置を右足で確認します。
③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)



300102

運転するときは

■エンジン始動

- ①駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。
②セレクトレバーが[P]であることを確認します。

⚠ 注意

エンジンは[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

- ③ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）
④エンジンスイッチをSTARTにし、エンジンを始動します。

🏠 アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

- ① ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

警告

セレクトレバーは確実にブレーキペダルを踏んで操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ② セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
- ③ セレクトレバーの位置を確認します。
- ④ 駐車ブレーキレバーを戻します。
- ⑤ 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1-13ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し

- ① 駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルを踏みます。
- ② 車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■ 走行

通常の走行：

Ⓓで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1-13ページ参照

上り坂では：

アクセルペダルを深く踏み込みます。

自動的にシフトダウンし加速します。

また、マニュアルモードに入れ勾配に適したギヤを選択するとなめらかな走行ができます。

下り坂では：

エンジンブレーキを併用してください。マニュアルモードでシフトダウンします。

☆3-56ページ参照

急な下り坂では：

マニュアルモードで2速または1速に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。



警告

走行中はセレクトレバーをⒺにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。



アドバイス

急発進、急加速など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■停車

- ① **D**のままブレーキペダルを確実に踏みます。

注意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で**P** **N**以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ② 必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
③ 長時間停車するときは**P**にします。
④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーが**D**にあることを確認して発進します。

注意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

アドバイス

「Nコントロール」機能が装備されています

Info-ECO（インフォ・エコ）モード選択時、車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。

再発進時はブレーキペダルから足を離してギヤがつかなくなるまで若干時間（約1秒）がかかります。

アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

■ 駐車

- ①車を完全に止めます。

⚠ 注意

車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを[P]に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

- ②ブレーキペダルを踏んだままの状態、駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
 ③セレクトレバーを[P]に入れます。
 ④エンジンを止めます。

☆1-24ページ参照

⚠ 注意

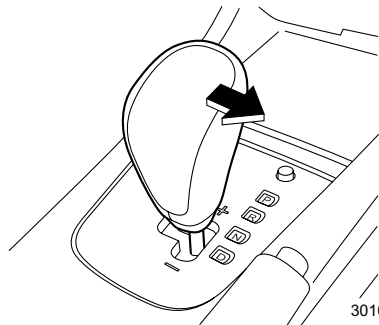
車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。[P]以外でエンジンを止め、車を放置するとバッテリー上がりの原因となります。

スポーツモード

山間部での走行または、高速道路の合流および追い越し加速時に適した走行モードです。スポーツモードにすると、変速位置がエンジンの高回転側に設定されます。セレクトレバーが[D]のときレバーをマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードになり、メーター内のSPORT表示灯が点灯します。同時にシフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。

☆3-24ページ参照




レバーを[D]または、マニュアルゲートの⊕側もしくは⊖側に移動する（マニュアルモードにする）と表示灯は消灯します。

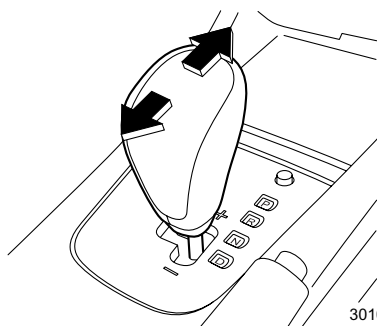


301046

スポーツシフト

■マニュアルモード

セレクトレバーを  からマニュアルゲートに動かし、 あるいは  方向に移動させるとマニュアルモードになります。



注意

マニュアルモード操作時は以下の注意をよくお読みください。

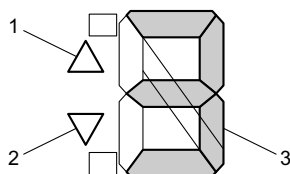
- オートマチックトランスミッションの油温が通常時より高い場合、AT 油温警告灯が点灯します。(3-32ページ参照)
- シフトダウン不可能な車速(シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合)でシフトダウン操作をした場合、“ピピ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。

■シフトポジション表示灯

マニュアルモードが選択されるとギヤ位置を表示します。

シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”が表示されます。

シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が消灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。



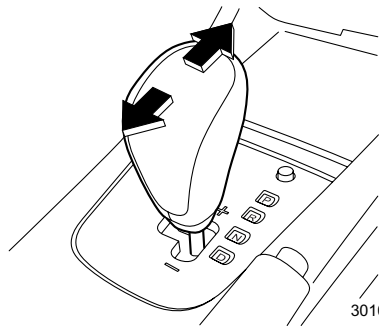
- ① シフトアップ可能表示灯
- ② シフトダウン可能表示灯
- ③ 変速ギヤ表示

301048

■シフト操作

●セレクトレバー

1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1 段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。



301047

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから[D]の位置に移動させます。

■滑りやすい路面での発進（2速発進）

雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。

ブレーキを踏んだまま、セレクトレバーを⊕側に動かしギヤを2速にします。このときシフトポジション表示灯は2速を表示します。



アドバイス

2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速したい場合は、セレクトレバーを[D]に戻すか、マニュアルモードとしてご使用ください。

☆3-56ページ参照

Info-ECO（インフォ・エコ）モード

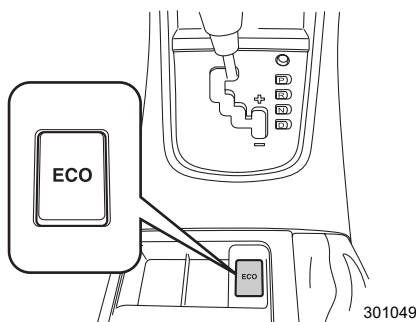
燃費効率を重視したモードです。

センターコンソールにある Info-ECO モードスイッチにより、運転条件に応じて走行モード（Info-ECOモードのON、OFF）を選択することが可能です。Info-ECO モード選択時、“Info-ECO” 表示灯が点灯中は燃費効率の良い走行状態であることを示しています。急加速などが必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときは、“Info-ECO” 表示灯は消灯します。“Info-ECO” 表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費効率の良い走りかたができます。

通常走行ではこのモードの使用を推奨します。

また、Info-ECOモードスイッチを押してInfo-ECOモードを解除することにより、登坂時や積載量が多い時に適した変速特性にすることが出来ます。

☆3-23ページ参照



アドバイス

- Info-ECOモード選択時に以下を行う場合、“Info-ECO” 表示灯が消灯し、Info-ECOモードは解除されます。
 - －スポーツモードにする
 - －クルーズコントロールを作動させる

これらの作動を解除すると、Info-ECOモードが復帰します。

☆3-55、3-66ページ参照

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ=全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤががしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や、最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆7-18ページ参照

ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD

マニュアル車の機構です。

ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき路面状況に合った駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

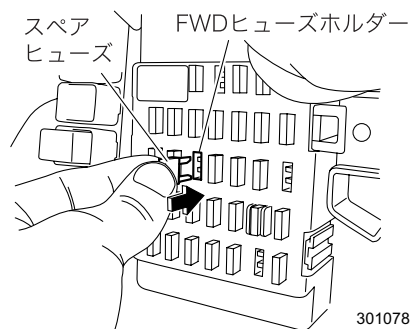
オートマチック車の機構です。

アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

■全輪駆動の強制解除

応急用スペアタイヤを装着するときは、全輪駆動を解除します。

- ① エンジンルームのヒューズボックスカバー裏からスペアヒューズ（どれでも可）を抜き取ります。
- ② 室内ヒューズボックスの FWD ヒューズホルダーに抜き取ったヒューズを差し込みます。
- ③ 全輪駆動が解除され前二輪駆動になったときは、メーター内のAWD警告灯が点灯します。



- ④ タイヤの修理あるいは交換後、すみやかにFWDヒューズホルダーからスペアヒューズを抜いて全輪駆動状態に戻してください。
- ⑤ 抜いたスペアヒューズは、エンジンルームのヒューズカバー裏に戻します。
- ☆6-39、7-5ページ参照

⚠ 注意

FWD ヒューズホルダーからスペアヒューズを抜かずにそのまま走行を続けると、駆動装置が損傷する原因となります。

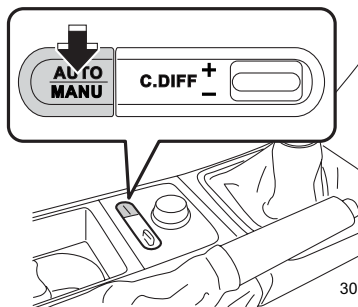
マルチモード DCCD (ドライバーズコントロールセンターデフ)

STIの機構です。

マルチモード DCCD (ドライバーズコントロールセンターデフ) は、センターデフのインシヤルLSDトルクを自動または手動で調整できる機構です。インシヤルLSDトルクを自動で調整するオートモードと、手動で設定できるマニュアルモードがあります。

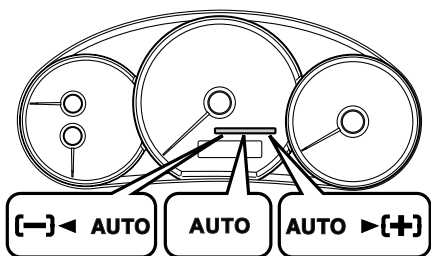
■ オートモードおよびマニュアルモードの切り替え方法

モード切り替えスイッチを押すごとにオートとマニュアルの切り替えができます。

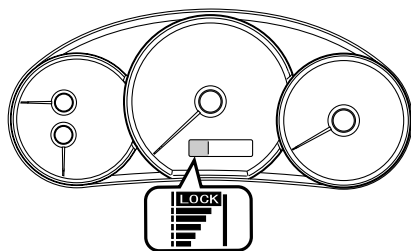


301156

オートモードの場合は、メーターにDCCDオートモード表示灯が点灯します。
 マニュアルモードの場合は、オドメーター・トリップメーターの横に、設定されている
 ニシャルLSDトルクのレベルが表示されます。



301220



301171

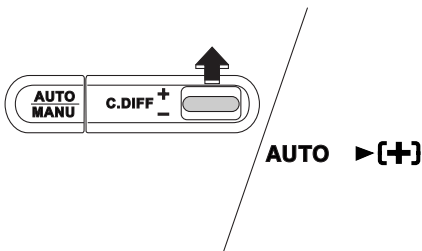
■オートモード

4輪車輪速センサー、スロットル開度センサー、ハンドル角センサー、ブレーキスイッチ、横G・ヨーレートセンサーなどの信号から走行状態、路面状況を推定し、電子制御により前後輪のインシャルLSDトルクを自動調整する機構です。オートモードには、通常使用する「AUTO」の他に、トラクション重視の「AUTO +」および回頭性重視の「AUTO -」があります。

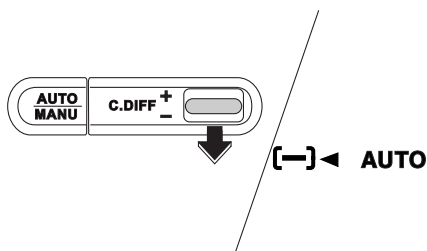
| モード | 制御内容 |
|----------|---|
| AUTO [+] | トラクションを重視し、センターデフの差動制限を強くした、滑りやすい路面の走行に適した制御モード。 |
| AUTO | あらゆる走行条件をカバーするオールラウンドタイプの制御モード。 |
| AUTO [-] | ステアリング応答性を重視し、センターデフの差動制限を弱くした、俊敏で軽快な走行に適した制御モード。 |

●オートモードのモード設定方法

C.DIFF +/-スイッチを+側に動かすと「AUTO +」になり、-側に動かすと「AUTO -」になります。AUTOに戻すときは設定したモードと反対側に動かすとAUTOに戻ります。
 (例：「AUTO +」にしているときは、-側に動かします。)



301172



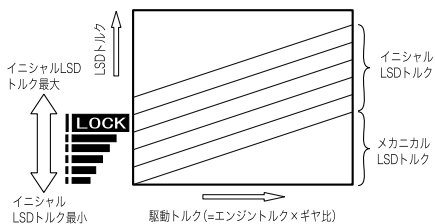
301173

■マニュアルモード

C.DIFF +/-スイッチを操作し、任意にイニシャルLSDトルクを調整することができます。

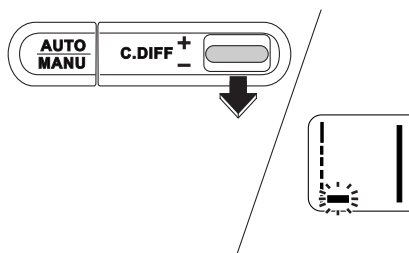
●イニシャルLSDトルクの設定方法

C.DIFF +/-スイッチを動かすことで設定を変更することができます。イニシャルLSDトルクは、設定ノブを+側に動かすと大きくなり、-側に動かすと小さくなります。設定はオドメーター・トリップメーター横に表示されます。目盛りが多くなるほどイニシャルLSDトルクは大きくなります。



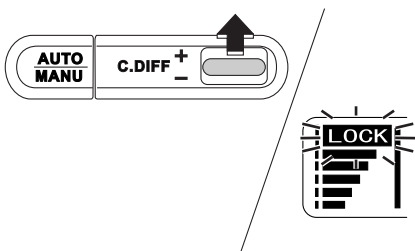
301170

イニシャルLSDトルク最小：メカニカルLSDのみの差動制限



301167

イニシャルLSDトルク最大：前後輪がほぼ直結状態



301168

🏠 アドバイス

- イニシャルLSDトルクを上げるほど車両の安定性は高くなりますが、カーブでは曲がりにくくなりますので、お好みに合わせて調整してください。一般的に滑りやすい路面ではイニシャルLSDトルクを上げて、滑りにくい路面ではイニシャルLSDトルクを下げる使いかたが有効です。また、雪道やぬかるみでタイヤがスリップしたときは、イニシャルLSDトルクをLOCKにすると脱出しやすくなります。
- 設定したイニシャルLSDトルクの設定は、オートモードまたはエンジンスイッチをOFFにしても残ります。ただし、バッテリー交換などでバッテリーの接続を外すとイニシャルLSDトルクは最小となります。

■ デフロックの強制解除

オートモードおよびマニュアルモードの差動制限中であっても、駐車ブレーキレバーを引けば瞬時にイニシャルLSDトルク最小の状態になります（駐車ブレーキ警告灯と連動）。ただしレバーを引いても表示灯の表示は変わりません。

レバーを戻せば設定したイニシャルLSDトルクに戻ります。

■ タイトコーナブレーキング現象

タイトコーナブレーキング現象は、舗装路でのカーブ走行や右左折、車庫入れなどを行うと、前後輪の回転差により振動、音を伴ったブレーキング現象です。

オートモードの場合は、自動的にイニシャルLSDトルクを制御します。ただし、走行状況によっては、タイトコーナブレーキング現象が発生する場合がありますが異常ではありません。

マニュアルモードの場合は、イニシャルLSDトルクを最小にしてください。また、急加速、急カーブを走行中にコントロールダイヤルを操作すると、センターデフの差動により軽いショックを感じることがありますが正常です。

⚠️ 注意

- マルチモード DCCDは万能ではありませんので、過信しないでください。急ハンドルや急ブレーキ、急カーブや下り坂、雪道や凍結路などの滑りやすい路面は安全な速度で慎重に走行してください。
- タイヤが空転しているときは設定ノブを絶対に切り替えないでください。空転が停止してから操作してください。
- マニュアルモードで停車時は、設定ノブを最小位置にしてください。

- けん引されるときは、マニュアルモードにしてイニシャルLSDトルクを最小にしてください。

けん引されるときは車載かロープけん引による場合のみ可能です。前輪または後輪だけを上げたけん引は絶対にしないでください。

けん引時の注意事項については、「けん引」の項を必ずお読みください。

☆7-18ページ参照

- パンクなどで応急用タイヤを使っているときは、必ずマニュアルモードにしてイニシャルLSDトルクを最小にしてください。

できるだけ早く標準タイヤを修理して付け替えてください。

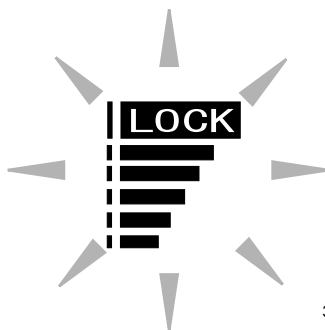
- センターデフ故障時（コントロールユニット、センサー類、断線、ショートなど）イニシャルLSDトルクDCCDマニュアルモード表示の全ての表示が1秒周期で点滅します。すみやかにスバル販売店で点検整備を受けてください。

一度異常が検出されるとエンジンスイッチがOFFになるまで保持されるので、途中で復帰しても表示灯は点滅したままになります。

- トランスミッションオイルはマニュアル専用のスバルギヤオイルをご用意ください。

オイル交換は通常走行の場合 40,000 km 毎に、過酷な走行頻度が多い場合は早め実施してください。

| | |
|-------|----------------|
| 使用オイル | スバルギヤオイルエクストラS |
| 交換時期 | 40,000 km |



301216

運転するとき



アドバイス

- 表示灯はあくまでも目安です。
- 低速時、アクセルペダルを素早く操作したとき、センターデフからリヤデフ周辺部にかけて「コツコツ」音が発生する場合がありますが、センターデフの構造上発生する音であり正常です。

クルーズコントロール


クルーズコントロール（自動定速走行装置）は、アクセルペダルを踏まなくても約 40 ～ 100 km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる機能です。

警告

次のような道路では危険ですので使用しないでください。

- 交通量が多く、車間距離が充分に取れない道路
- 急な下り坂や急カーブが多い道路
- 凍結、積雪などで滑りやすい道路

注意

もし走行中にクルーズコントロール表示灯“CRUISE”の点滅とエンジン警告灯“”の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

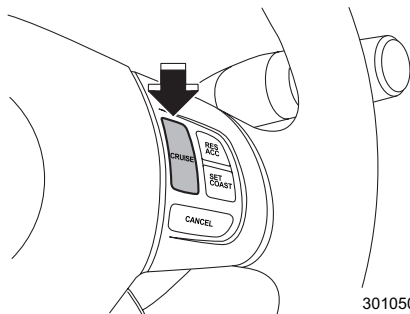
アドバイス

- 上り坂や下り坂では勾配、積載量により、一定車速を保てない場合があります。
- クルーズコントロールスイッチを押しながらエンジンを始動させると、クルーズコントロール表示灯“CRUISE”が点滅します。この場合、一旦エンジンスイッチを OFF にしてスイッチに触れずに再度エンジンを始動させてください。

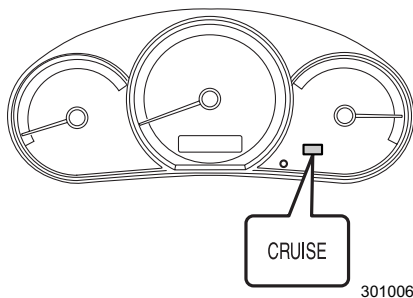
■CRUISEスイッチ

- ① CRUISE スイッチを押すとクルーズコントロールが作動可能になります。クルーズコントロール表示灯も点灯します。

☆3-25ページ参照

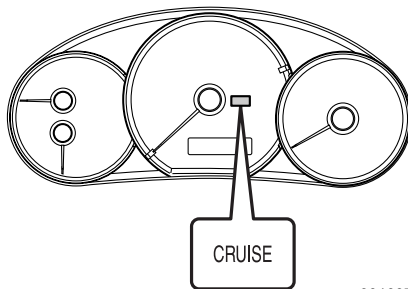


タイプAメーター



301006

タイプBメーター



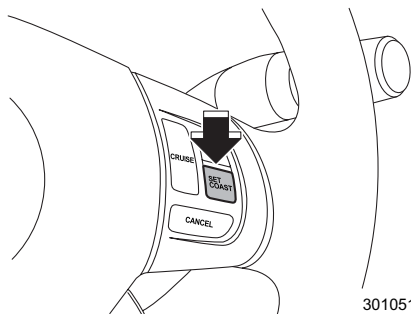
301007

- ②スイッチをもう一度押すと作動停止します。エンジンを止めたときも自動的に作動停止し、表示灯は消灯します。

■速度をセットするとき

- ①CRUISE スイッチを押して作動可能にします。
- ②アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
- ③希望する速度になったとき SET/COAST スイッチを押すと速度が設定されます。メーター内にクルーズコントロール車速セット表示灯が設定されたことを示します。

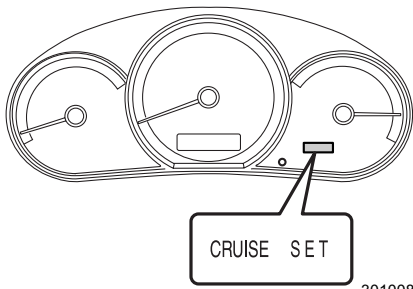
☆3-25ページ参照



301051

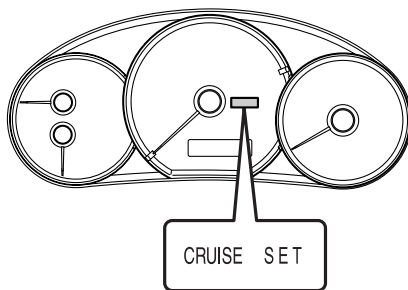
運転するだけ

タイプAメーター



301008

タイプBメーター

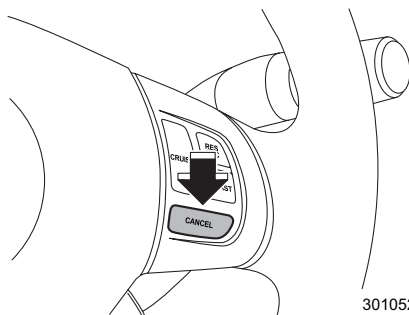


301009

■一時解除

次の場合は速度セットが一時的に解除されます。メーター内のクルーズコントロール車速セット表示灯も消えます。

- ブレーキペダルを踏んだとき。
- CANCELスイッチを押したとき。



301052

■一時解除の復帰

RES/ACCスイッチを押します。解除前の設定した速度まで復帰します。

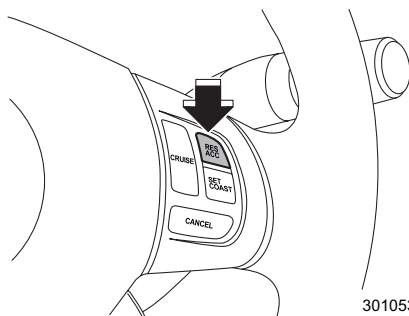
🏠 アドバイス

- 復帰できるのは速度が32 km/h以上のときのみです。
- スイッチを押し続けても最初に設定した速度以上にはなりません。設定した速度を変えたい場合は、復帰操作が終了した後にセットし直してください。
- 速度が32 km/h以下になったときは速度メモリーが消去され、復帰操作はできません。
- 一時解除後、速度が32 km/h以下になった場合は再度セットし直してください。

■セット速度を高めるとき

次の二つの方法があります。

- RES/ACC スイッチを押し続け、希望速度になったら離す。



301053

- アクセルペダルで加速し、希望速度になったらSET/COASTスイッチを押して、速度をセットし直す。

アドバイス

セット速度を少し上げたいときは、RES/ACCスイッチを軽く押すと1 km/h 上げることができます。

■一時的に加速したいとき

追越しなどで加速したいときはアクセルペダルを踏み込んでください。アクセルペダルから足を離すと設定した速度まで自動的に戻り、定速走行を続けます。

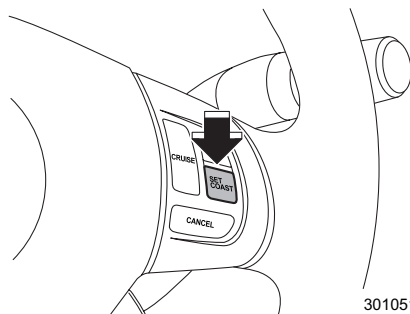
アドバイス

操作スイッチでの急加速はできません。

■セット速度を下げるとき

次の二つの方法があります。

- SET/COASTスイッチを押し続け、希望速度になったら離す。
- ブレーキペダルで減速し、希望速度になったらSET/COASTスイッチを押して、速度を設定し直す。



301051

アドバイス

セット速度を少し下げたいときは、SET/COASTスイッチを軽く押すと1 km/h 下げることができます。

■一時的に減速したいとき

減速するときはブレーキペダルを踏んでください。設定した速度に戻すときは復帰操作をしてください。

☆3-68ページ参照



アドバイス

- 操作スイッチでの急減速はできません。
- 下り坂ではエンジブレーキと併用してください。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

注意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなる場合があります。
 - － マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - － 道路のつなぎ目などの段差
 - － 凹凸路、石畳などの悪路
 - － 下り坂での旋回
 - － 路肩に草や砂利が多い道路
 - － 砂利道
 - － 雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

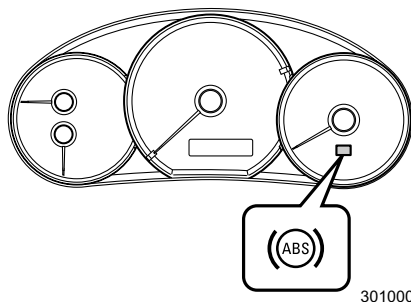
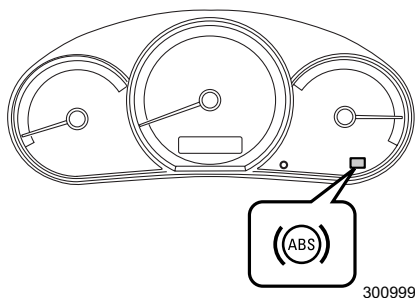
- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - － エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - － ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯するのが正常です。

タイプAメーター

タイプBメーターおよびタイプCメーター



⚠ 注意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。
(ABSとしては作動しません)

アドバイス

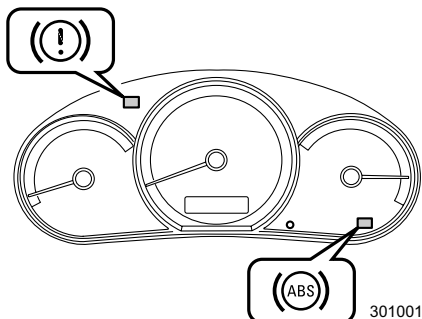
警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

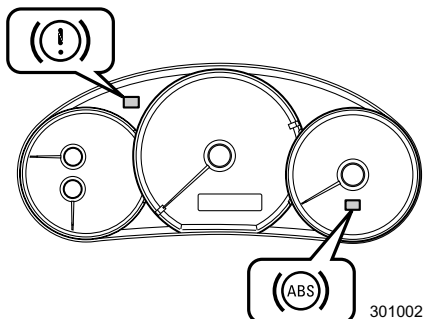
● エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

タイプAメーター



タイプBメーターおよびタイプCメーター



注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-28ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

アドバイス

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキアシスト

ブレーキを強く踏めないドライバーの操作を補助する装置です。
ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

注意

ブレーキアシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。

アドバイス

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキアシスト機構が正常に機能しているときの現象で、異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くなるようになります。
- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、コクッと音が聞こえることがあります。

VDC

VDC (ビークルダイナミクスコントロール) システム

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。

VDC システムは、横滑りや尻振りや車輪の空転を起こしそうになると ABS 機能、トラクションコントロール (TCS) 機能および横滑りコントロール機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制して走行時の方向安定性を確保する装置です。

■トラクションコントロール (TCS) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能は、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。

この機能が作動すると、VDC 作動表示灯が点灯します。

☆3-77ページ参照

●電子制御リミテッドスリップディファレンシャル (LSD) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能の中には、リミテッドスリップディファレンシャル (LSD) 機能も含まれます。この機能は、一般的な LSD の機能と同様に、左右輪の片輪がスリップ (空転) しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え滑りやすい路面上でも駆動力を確保する機能です。

■横滑りコントロール (VDC) 機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。

この機能が作動すると、VDC 作動表示灯が点滅します。

☆3-77ページ参照

注意

- VDC を過信しないでください。VDC が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に安全運転を心がけてください。
- VDC が作動するような路面では車速を充分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装備するときは、5-2 ページの記載事項をお守りください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、下記項目をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- VDC 装着車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。
- VDC が正常に機能しなくなることがありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

☆8-6ページ参照



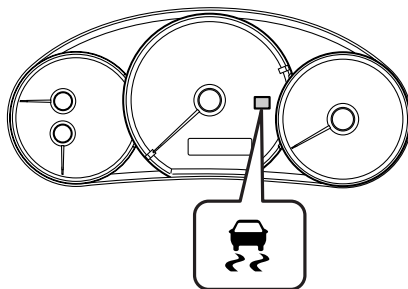
アドバイス

- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じる場合があります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる場合があります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDCが作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6-15、7-7ページ参照

■VDC作動表示灯

VDC機能作動時は点滅し、TCS機能作動時は点灯します。



300997

アドバイス

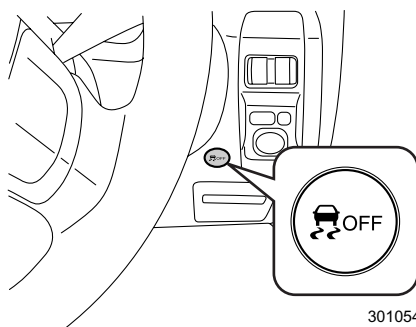
エンジンスイッチがONで点灯、約2秒後消灯するのが正常です。

■VDC OFFスイッチ

下記のような特殊な状況下において TCS 機能、VDC機能を一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき。
- むかみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき。

スイッチは、運転席口アカバー右側にあります。



301054

- エンジン回転状態のとき、VDC OFF スイッチを押すと、VDC 警告灯/VDC OFF 表示灯が点灯し、VDC機能、TCS機能が作動停止状態になり、VDC機能、TCS機能が装備されていない車両と同じ走行性能になります。ただし、作動停止状態でも電子制御LSD機能は残ります。
- 作動可能状態に復帰させるときには、もう一度VDC OFFスイッチを押します。

注意

VDC機能、TCS機能を解除したままにすると駆動力を向上する機能、車両安定性を高める機能は働きません。

そのため、必要なとき以外は、VDC機能、TCS機能を作動停止状態にしないでください。

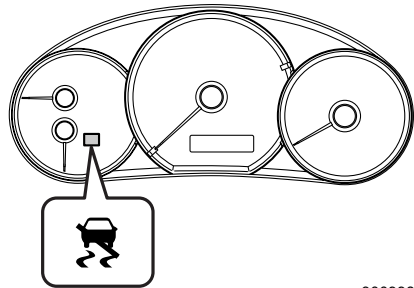
アドバイス

- VDC OFFスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC警告灯/VDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。この場合は、一度エンジンスイッチを切り、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動すればVDC機能、TCS機能は自動的に作動可能状態になります。

■VDC警告灯/VDC OFF表示灯

VDC警告灯/VDC OFF表示灯は、以下の場合に点灯します。

- VDCの電子制御システムに異常があるとき。
- VDC機能、TCS機能が作動停止状態のとき。
- VDC OFFスイッチを押してVDC機能、TCS機能を作動停止状態にしたとき。



300998

注意

- 下記の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチONで点灯しないとき
 - － 点灯したままのとき
 ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しません
がABSは作動します。VDCのついていない車両と同じように扱ってくだ
さい。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点
検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジン始動してから数分たっても点灯し続ける場合は、異
常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- エンジンスイッチがONで点灯、エンジン始動後消灯するのが正常です。
また、次の場合も正常です。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しな
い。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯
する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しないとき。
- ☆3-34ページ参照
- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場
合がありますが、これは異常ではありません。

マルチモードVDC（ビークルダイナミクスコントロール）システム

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。マルチモード VDCシステムは、横滑りや尻振りや車輪の空転を起こそうになるとABS機能、トラクションコントロール（TCS）機能および横滑りコントロール機能（VDC）を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制して走行時の方向安定性を確保する装置です。

マルチモード VDCは、路面状況などにより制御モードを選択することができます。

☆3-82ページ参照

■トラクションコントロール（TCS）機能

トラクションコントロール（TCS）機能は、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。

この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点灯します。

☆3-77ページ参照

●電子制御リミテッドスリップディファレンシャル（LSD）機能

トラクションコントロール（TCS）機能の中には、リミテッドスリップディファレンシャル（LSD）機能も含まれます。この機能は、一般的なLSDの機能と同様に、左右輪の片輪がスリップ（空転）しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え滑りやすい路面でも駆動力を確保する機能です。

■横滑りコントロール（VDC）機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。

この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆3-77ページ参照

注意

- マルチモード VDCを過信しないでください。マルチモード VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に安全運転を心がけてください。
- マルチモード VDC が作動するような路面では車速を十分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装備するときは、5-2ページの記載事項をお守りください。

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、下記項目をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- マルチモード VDC 装着車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。
- マルチモード VDC が正常に機能しなくなることがありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

☆8-6ページ参照



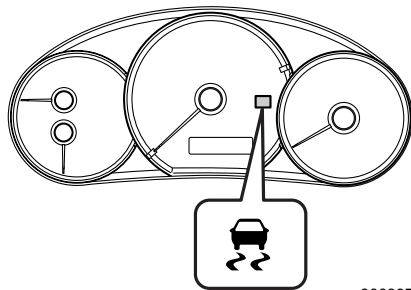
アドバイス

- マルチモード VDC が作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、マルチモード VDC が作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、マルチモード VDC の作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、マルチモード VDC の作動をチェックしている動きで、正常です。
- マルチモード VDC が作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、マルチモード VDC が正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、マルチモード VDC が正常に機能しなくなることがあります。

☆6-15、7-7ページ参照

■VDC作動表示灯

VDC機能作動時は点滅し、TCS機能作動時は点灯します。



300997

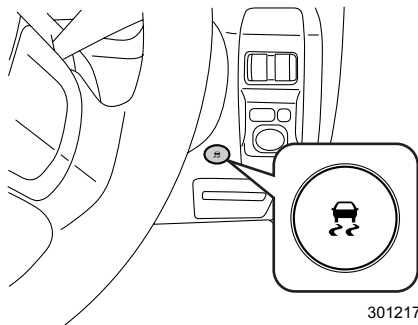


アドバイス

エンジンスイッチがONで点灯、約2秒後消灯するのが正常です。

■VDCモード切り替えスイッチ

マルチモード VDC の制御モードを切り替えるときに使用します。



301217

ノーマルモード：

ABS、TCS、VDCすべての制御を行うモード。通常使用するモードです。

トラクションモード：

TCS、VDCの機能を制限し、ノーマルモードよりシステムの介入タイミングを遅くした制御を行うモード。エンジンのトルクダウン制御を行わない方が走行性能が向上する場合に使用するモードです。

OFFモード：

ABS制御のみ行うモード。深い雪道やぬかるみ等での緊急脱出時に使用するモードです。

●モードの切り替え方法

トラクションモード：

VDCモード切り替えスイッチを2秒間押します。VDC警告灯/VDCモード表示灯が、緑色に点灯します。ノーマルモードに戻すときは、VDCモード切り替えスイッチを押します。

OFFモード：

VDCモード切り替えスイッチを押します。VDC警告灯/VDCモード表示灯が、黄色に点灯します。ノーマルモードに戻すときは、VDCモード切り替えスイッチを押します。OFFモードからトラクションモードに切り替えるときは、VDCモード切り替えスイッチを2秒間押します。



注意

VDC機能、TCS機能を解除したままにすると駆動力を向上する機能、車両安定性を高める機能は働きません。

そのため、必要なとき以外は、VDC機能、TCS機能を停止にしないでください。



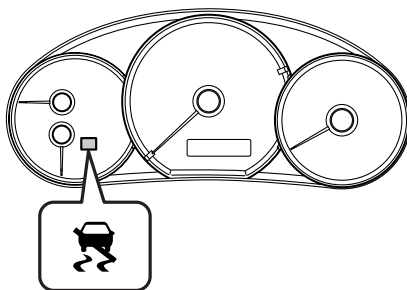
アドバイス

- VDCモード切り替えスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC警告灯/VDCモード表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。この場合は、一度エンジンスイッチを切り、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動すればVDC機能、TCS機能は自動的に作動可能状態になります。


■VDC警告灯/VDCモード表示灯

VDC警告灯/VDCモード表示灯は、以下の場合に点灯します。


- マルチモード VDCの電子制御システムに異常があるときは、黄色に点灯します。
- トラクションモードを選択したときは、緑色に点灯します。
- OFFモードを選択したときは、黄色に点灯します。



300998


注意

- 下記の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチONで点灯しないとき
 - － 点灯したままのとき
 ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。
 上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- マルチモード VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、マルチモード VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。マルチモード VDCのついていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジン始動してから数分たっても点灯し続ける場合は、異常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。


アドバイス

- エンジンスイッチがONで点灯、エンジン始動後消灯するのが正常です。また、次の場合も正常です。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しないとき。
- ☆3-34ページ参照
- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

ハンドル

パワーステアリング

アドバイス

- ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変わることがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱい切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
- 極低温時にオイルが硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

MEMO